

古墳の寺社転用からみる現代交通の素地

—群馬県を事例とした寺社に転用された古墳、集落立地、各時代における交通の分布分析を通して— 中谷研究室 B4 千年村ゼミ 1X12A092-9 鈴木登子

序論：第1章 本研究について

■研究目的

現代日本には遺跡が多く存在している。その中でも古墳は生活圏の中にあり、現在は公園や墓地、神社など新たな役割を担っている。古墳は古代から存在しているにもかかわらず、転用されることで埋葬空間としての認識が失われている。本研究では、こうした一度意味・機能を失った事物の転用と地域の構造の関係を明らかにすることを目的とする。

■研究方法

本研究では寺社に転用された古墳の通史的整理を行ったあと、分布をみることによって空間的な分析を試みる。また、古代から存在していた共通点のもとに、古墳と持続的な地域を比較していく。第2章では、寺社に転用された古墳の現代における位置づけを示す。既往研究と文献によって古墳が寺社に転用される過程を通史的に整理する。第3章では、群馬県古墳の様相をまとめる。また、『上毛古墳総覧』記載の「群馬県古墳分布図」をもとに、古墳の分布図を示す。

第4章では、『上毛古墳総覧』から群馬県における寺社に転用された古墳を抽出し、リストを作成する。また、リスト一覧から現存する寺社に転用された古墳を比定し、分布図を作成する。

第5章では、第4章で作成した分布図を、既往研究が示す持続的な地域の領域と重ねあわせ、比較する。各時代の交通とも重ねて、古代から重なってきた交通と、寺社に転用された古墳の関係を考察する。このふたつの考察により、寺社に転用された古墳と地域の構造を明らかにすることを試みる。

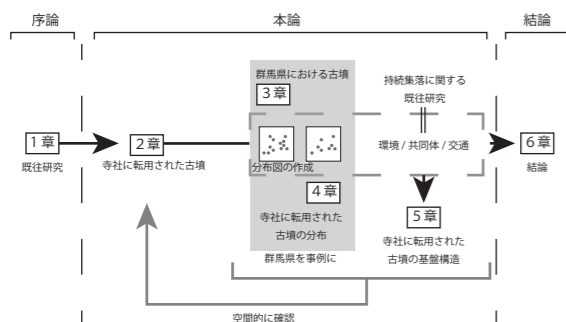


図1. 本論文の構成

本論：第2章 寺社に転用された古墳

本章では古墳築造時から寺社の転用に至るまでの変遷をまとめた。三宅和朗「古墳と植樹」では古墳は7世紀半ば以降に植樹が始まり杣（そま）と化したことを指摘している。つまり、古墳は埋葬空間としての機能を終えたあと半自然の状態になり、周囲の人々からは古墳という認識がされていなかった。また、大部分の古墳が寺社とは直接的な関係がないことがわかった。

寺社に転用された古墳の事例を整理し、各地で寺社への転用は行われていることがわかった。以上より、古代集落にとって埋葬空間であった古墳が意味機能を失ったあと、人々が信仰空間として適していると認識したことがわかった。

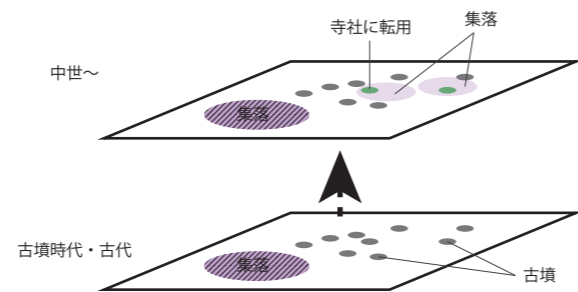


図2. 集落と古墳の関係

第3章：群馬県古墳

本章では群馬県古墳を古墳時代と現代とにわけて、群馬県における古墳の認識を整理した。また、一次史料として扱う『上毛古墳総覧』の基礎情報を整理した。群馬県では近年古墳の保存整備が活発であるが、一方で長い間古墳は生活景の一部として存在し、改変も著しかった。

『上毛古墳総覧』は昭和13年に発行され、現在の群馬県全域に渡り、計8,423基の古墳が記載されている。古墳分布図も付されており、本論文ではこれをもとに古墳分布図を作成した。

第4章：群馬県における寺社に転用された古墳の分布

本章では『上毛古墳総覧』から寺社に転用された古墳を抽出、一覧化し、分布図を作成した。

	古墳数(基)	寺社に転用された古墳数(基)
勢多郡	1065	9
群馬郡	1445	22
多野郡	1692	9
北甘楽郡	357	5
碓氷郡	386	2
吾妻郡	274	6
利根郡	445	2
佐波郡	1150	10
新田郡	831	17
山田郡	309	2
邑楽郡	202	10
前橋市	15	0
高崎市	238	5
桐生市	14	0
合計	8423	99

表1. 各市郡の古墳数と寺社に転用された古墳数

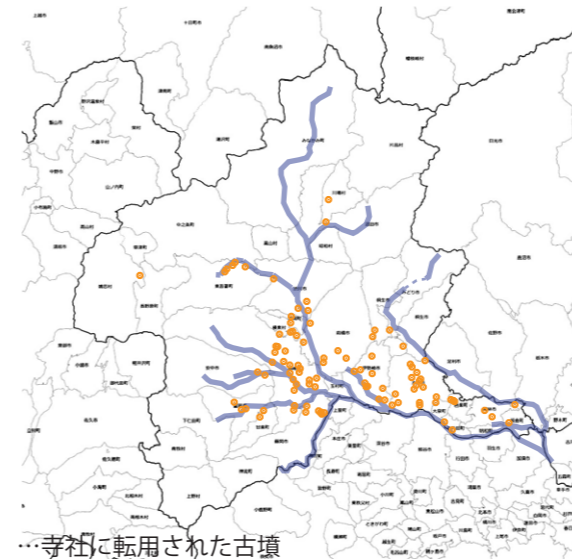


図3. 寺社に転用された古墳分布図

第5章：寺社に転用された古墳の背景構造

本章では、持続的な地域との比較として環境・共同体・交通の視点から寺社に転用された古墳の分析を試みた。具体的には持続的な地形立地の比較、地域の領域と、各時代の交通に寺社に転用された古墳を重ねあわせをした。持続的な地域との比較を通じて、寺社に転用された古墳と地域の構造との関係を考察した。

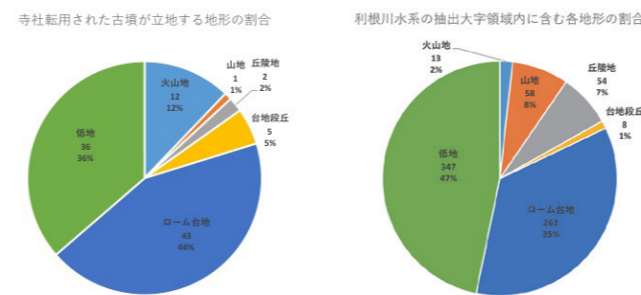


図4. 地形立地の比較

持続的な地域と寺社に転用された古墳では、ローム台地と低地での立地が大部分を占めている点で

立地の類似性を確認した。持続的な地域と立地地形が似ていたために、寺社に転用された古墳は存在し続けることが可能であったと考える。

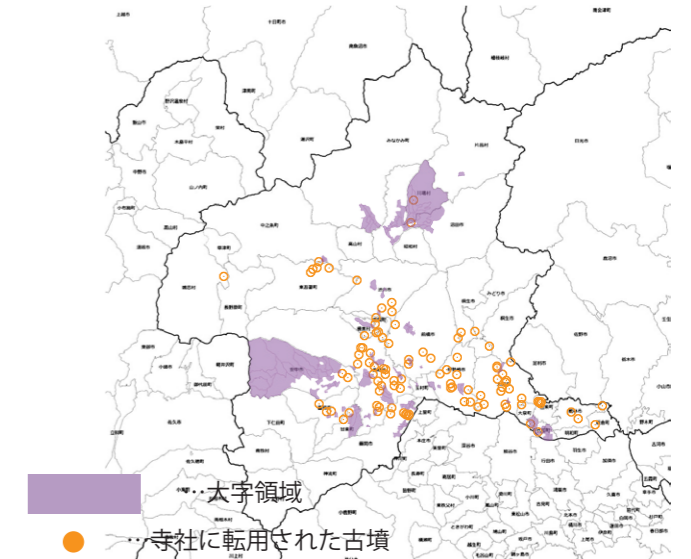


図4. 持続的な地域との重ねあわせ

持続的な地域の領域との比較では、寺社に転用された古墳は9割以上大字領域から離れた位置にあることが確認された。

交通の比較においては、各時代の交通経路に沿うように分布していることが読み取れた。寺社に転用された古墳は地域が営まれる過程で、各時代の交通を写しとったものであることがわかった。

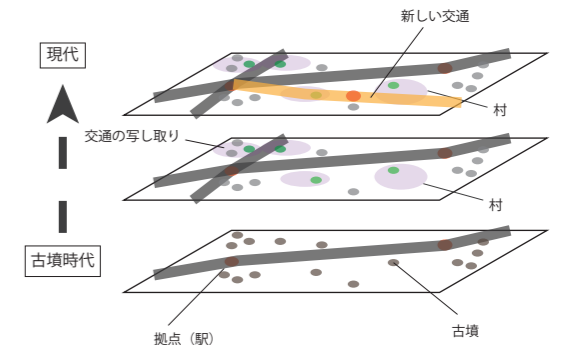


図5. 交通と寺社に転用された古墳の関係

第6章：結論

本研究では2つの考察結果を得た。①寺社に転用された古墳は持続的な地域から離れていること②寺社に転用された古墳が各時代の交通に沿うように位置していることは、交通経路上で形成されていた地域の信仰空間として、古墳のかたちが適していた。

以上より、本研究では一度意味・機能を失った事物が、古代から交通や地域の営みなど不可視の現象を都度写しとり続けてきたと結論づけた。

図版出典

図1～5. 筆者作成

表1. 筆者作成

第4章：群馬県における村落展開と古墳

第4章では群馬県の市史や町誌、および既往研究を踏まえながら、群馬県の村落展開を整理する。寺社に転化した古墳の分布と重ね合わせ、古墳を通じた村落展開について考察したい。

第5章：結論（仮）

第5章では2,3章で時間的、地理的に分析した内容を第4章を用いて繋ぎ合わせる。最後に2,3,4章を踏まえ、群馬県における寺社に転化した古墳を通して、古代集落の間が時間的にも空間的にも連続であることを明らかにしたい。

参考文献

■古墳の変容過程に関して

- ・三橋 健『神社の由来がわかる小事典』（PHP 研究所，2007）
- ・大場 磐雄『神道考古学論攷』（雄山閣，1971）
- ・岡本 東三『古代寺院の成立と展開』（山川出版社，2002）
- ・三宅 和朗『古代の神社と祭り』（吉川弘文館，2001）
- ・小野 祖教，渋谷 謙一『神道の基礎知識と基礎問題』（神社新報社，1992）
- ・重松 明久『古墳と古代宗教：古代思想からみた古墳の形』（学生社，1978）
- ・森 浩一『古墳と古代文化 99 の謎：巨大な墓づくりに、なぜ狂奔したか』（産報，1976）
- ・小野 泰博『日本宗教事典』（弘文堂，1994）

■群馬県の古墳に関して

- ・『上毛古墳綜覧』（群馬県，1938）
- ・群馬県教育会『群馬県史 .|p 第4巻』（群馬県教育会，1927）
- ・群馬県教育会『群馬県史 .|p 第3巻』（群馬県教育会，1927）
- ・群馬県教育会『群馬県史 .|p 第2巻』（群馬県教育会，1927）
- ・群馬県教育会『群馬県史 .|p 第1巻』（群馬県教育会，1927）

図版・出典

■引用

第2章：古墳の寺社への転化例

- ・広島県教育委員会

(<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/bunkazai/bunkazai-data-206120070.html>) 2015.9.22 閲覧

- ・千葉県

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/bunkazai/bunkazai/p411-052.html>) 2015.9.22 閲覧

■図版

図1. 筆者作成

図2. 『上毛古墳綜覧』（群馬県，1938, p.410）より 筆者加工

図3. 筆者作成

図4. 筆者作成